



のもと たかゆき
野本 貴之 議員
(芙蓉)

高齢者世代の情報格差解消に向けた提案

問 情報格差の対応と事業の取組を伺う。

部長 インターネット利用時の危険性も含め、高齢者のみならず、市民向けの出前講座等の取組について研究したい。

部長 高齢者のインターネット利用率は低い状況。身近な場所で身近な人から使い方や利用方法などを学べる環境を整えることは必要と認識。国が進めるデジタル活用支援員などの制度が活用できるようにになれば検討したい。

問 行政サービスのICT化が進むに当たり、ICTを利用できない方が相談を受けたり、教えてもらえるような窓口が早急に必要になってくると思うがどうか。

部長 非常にこれから重大な課題だと認識。デジタル化のほうへ移行できる支援を行政として考え

る必要がある点は大きな課題。

部長 総務部と企画部で連携を話している。市民に寄り添ったデジタル化が必要だと思う。

知と文化の拠点、図書館の利活用促進の提案

問 図書館のコロナ禍の課題を伺う。また文化活動の停滞を招かないために滞在時間の緩和を考える時期だと思うが、どうか。

部長 課題は感染防止と図書館の利用促進の両立である。当初は、県内の状況などを参考に、滞在時間30分を目安としたが、一律にせず短時間のお願いを9月中旬から開始した。

問 オンラインの取組を何か考えているか。

部長 オンラインについて今後取り組んでいきたい。また、企画部の情報化推進計画等があるので企画部と協力しながらやっていきたい。

部長 新たな魅力づくりとしてウェブ会議システムを考えるなど新しい施策を庁内協議したところ。今後そのような点を大事にしたい。

その他の質問

コロナ禍における幼保等の未就学児への対応とストレス緩和について



いなば こうじ
稲葉 晃司 議員
(蒼天)

潤井川青見橋で撮影された人気ドラマ「半沢直樹」ロケ地のシティプロモーション活用を

問 人気ドラマ「半沢直樹」の第4話の1部シーンが市内の潤井川の青見橋にて撮影された。このロケ地をシティプロモーションに結びつけるなどの取組はいかがか。

部長 このたびのドラマの経緯は、テレビ局側から直接、富士フィルム富士宮工場に撮影の依頼があったとのこと。本市では、令和2年度のシティプロモーション推進事業とLINEを活用し本市の魅力を発信する「びまもり美守クリエーション事業」や「ワーケーション推進事業」を推進している。ご提案の人気ドラマのロケ地のシティプロモーションへの活用は、大変有効な手段の一つであるものの、ドラマや映画のコンテンツは様々な制約もあ

ることから注意をしながら情報発信のツールとして活用し、多くの人に共感してもらえるような効果的なシティプロモーションに努めていきたい。

問 今回のロケ地だけでなく、今までに市内で撮影されたドラマや映画のシーンを集約させたものがあるとシティプロモーションに役立つのではないかと。遊びの感覚を仕事に用いることもシティプロモーションに必要な感覚であると思うがいかがか。

部長 今回の関係者の話では、富士山のあるまちの郊外の工場を探したいということで制作側が「ここが最高だ！」とのことで決定したとのこと。ロケ地に選ばれたことで富士宮市に住んでいて良かった、という思いを改めて子どもたちに伝えていきたいと思った。また、令和3年度、源頼朝に絡む大河ドラマの中で撮影地になるのではとのことから、当地の魅力が日本人の心を揺さぶる力を持ち合わせており、それを色々と工夫をして、今回のご提案を前向きに捉えて取り組んでいきたいと思う。